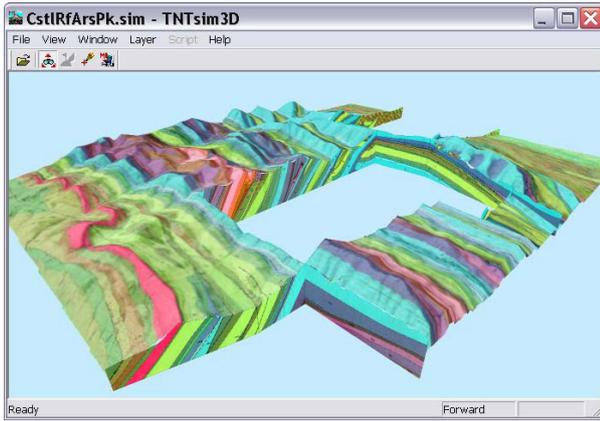
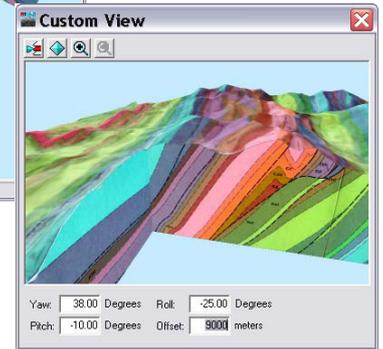
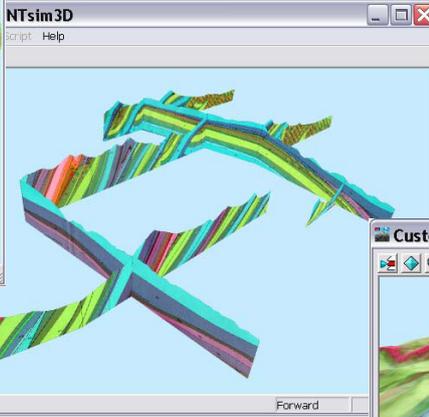


# マニフォールド



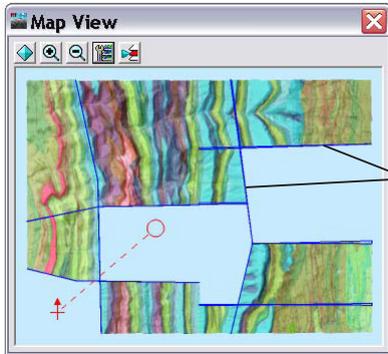
起伏陰影付き地質図と地下の複数の地質断面マニフォールドを表示する景観ファイル。地質図に透明な "穴" を作るため、ランドスケープビルダーにおいてマスクが使われました。穴を通して地下のマニフォールドの様子がわかります (左図)。また、地表の地質図は断面の構造とよくあっています。右の図では、地表の地質図がトグルオフされて断面マニフォールドだけが表示されています。このシミュレーションに使用したデータについては、テクニカルガイド「マニフォールドを使った3次元地質の可視化 (Visualize 3D Geology Using Manifolds)」で解説しています。



表示画面でマニフォールドレイヤの表示・非表示が行えます。

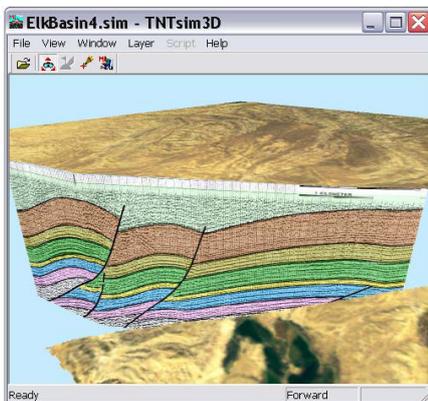


ランドスケープビルダーの [マニフォールド追加] アイコンボタンを使って、ラスタマニフォールドを景観ファイルに追加します。

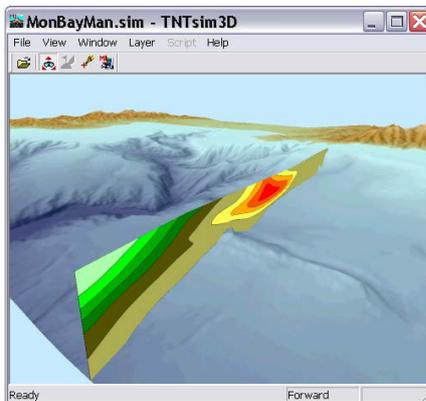


地図画面 (平面図) では全マニフォールドの境界線がユーザが指定した色 (ここでは青) で表示されます。

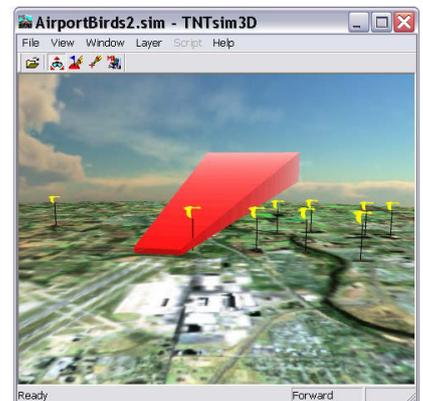
ラスタのマニフォールドオブジェクトをランドスケープファイルに追加するには、TNTsim3D の [景観ファイルの作成 (Landscape Builder)] 処理にある [マニフォールド追加 (Add Manifolds)] アイコンボタンを使用します。元のマニフォールドの形状や空間的な配置を定義する三次元ジオリファレンス用コントロールポイントが処理されて、TNTsim3D の高速で正確なリアルタイムレンダリングに適した三角形メッシュを生成、保存します。他のレイヤ同様、TNTsim3D においてマニフォールドの表示を自由にオン・オフすることが可能です。



地下の反射法地震探査断面を示すマニフォールド。このシミュレーションの元になったデータと右の2つの図についてはテクニカルガイド「3次元表示におけるマニフォールド (Manifolds in 3D Views)」で解説しています。



海洋断面を表す仮想平面マニフォールド。色の違いは計算により求められた海流速度の変動を示しています。



三次元空間を定義したマニフォールド。ボードピンと空の背景を使ってシミュレーションしている。